

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		シビックプライドの醸成	神奈川県横浜市
アイデア名(注2) (公開)	地域 ICT クラブ主導なシビックプライドの醸成		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	弘明寺キッズ ICT クラブ		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	6名		
代表者情報	氏名(公開)	吉田健志	
メンバー情報		沖田幸一、中山圭太郎、沖田果菜、小手真紀子、沖田ゆかり	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

学生による継続的な地域活動を阻害するいろいろな問題を、学生主体の地域 ICT クラブを創設することで、一体的に解決します。

<解決アイデアの内容>

私（吉田健志）は小学6年生のとき、総合学習の時間に、横浜市南区にある「弘明寺商店街」を題材して、様々な取り組みを行いました。まず、弘明寺商店街にいき、どのような問題があるのか調査しました。弘明寺商店街の周囲には高校や大学が多く、留学生が多いことがわかりました。留学生にとっては、弘明寺商店街の案内が日本語でわかりにくくなっていることがわかりました。そこで、弘明寺商店街のお店を紹介する英語の映像を制作して、ホームページでPRしました。実際に弘明寺商店街のホームページで採用していただいています。また、訪日外国人向けにもわかりやすい英語のPR映像を制作しました。しかしながら、その途中にはたくさんの困難がありました。まず、小学校の総合学習の授業が終わってしまい、プロジェクトを続けられなくなりました。弘明寺商店街を盛り上げたい思いでやってきましたが、途中でやめることができず、担任の先生や関わっていただいたサポート企業の皆さんに依頼して、授業とは直接関係せず、学生主体でプロジェクトを継続できるようにお願いしてきました。結果、小学6年生の間、授業の合間を縫ってクラスのみならず1年におよぶプロジェクトを行うことができました。

現在、私は中学1年生です。中学校の授業や課外活動では、弘明寺商店街の地域活動を行われていませんでした。地元の弘明寺商店街を盛り上げたい思いが忘れられず、自分で地域活動団体を立ち上げようと思いました。まず、親に相談しましたが、プロジェクトをうまく説明できず理解を得られないばかりか、危険性が高いとの判断で家ではパソコンを使用することを制限されていました。つぎに、横浜市の企業や自治体の方が参加している研究会（リビングラボ）に参加して相談したところ、小学6年生のときのプロジェクトのことをよく知っていてくれて、評価してくれていたことで、プロジェクトを継続するならばと支援してくれることになりました。このときから、技術や資金面でパソコンの環境を整えてくださったり、まちづくりやICTの指導・法律のアドバイス・提携企業の紹介をしてくだったりして、弘明寺商店街の活性化活動を再開することができるようになりました。同時に、これまで私が個人で行っていた活動が、継続した活動になるように地域ICTクラブ「弘明寺キッズICTクラブ」を創設しました。

（参考）弘明寺商店街の活性化PRアニメ映像

http://www.gumyouji-shoutengai.com/cnts/option2/?c=ooka_dena_v1

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

学生による継続的な地域活動を行うには、いろいろな問題があることがわかりました。

学生による継続的な地域活動を阻害するいろいろな問題

- ・小学校から中学校へ進学すると、総合学習で行っていたプロジェクトが分断します
(中学校から高校でも同じことが起きます。)
- ・学校でクラス替えや担任の先生が変わると、活動が継続しにくいです
(また、総合学習の内容が進学すると、内容が継続していないことがあります。)
- ・コンピュータの環境が十分に準備できていない家庭があります
- ・小学校のとき授業で使ったデータやプログラム・アプリケーションが引き継がれておらず、見つかりません
- ・親の理解を得られないことがあります
- ・法律や活動資金のことは授業のときはあまり気にしませんでした。実際に活動するときにはとても大切でした
- ・地域の企業や自治体とコラボレーションするのは学生だけではできず、大人な力を借りました

学生による地域 ICT クラブを創設

このような問題を解決するために地域 ICT クラブを創設しました。地域 ICT クラブは、

- ・長期的なまちづくりと ICT プロジェクトの管理をします
- ・地域の（小学校・中学校・高校・大学）学生を中心に、地域の企業、自治体と連携して組織します
- ・コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、データ、アカウント）の管理をします
- ・地域 ICT クラブとして、研究会（リビングラボ）に参加して、活動を知ってもらい、協力してまちづくりに取り組んでいきます
- ・

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

リビングラボに参加・発表（活動を知ってもらう）



地域の団体と連携（社会実験を繰り返し実施）



地域の企業や学校と連携しながら社会実験を重ねて、シビックプライドの醸成につながるまちづくりと ICT の継続的に取り組みを行う。